

121019 アワフキムシ

最近、小さな「セミ」のような、或いは大きな「ツマグロヨコバイ」のような体型の虫に何度か出会いました。

体長は 10mm 前後で、こちらの気配を察すると“ポンッ”という感じで飛び跳ねて、どこかへ逃げて行ってしまうのです…

いったい何者なのでしょう？？

答えは「アワフキムシ」です！

セミやツマグロヨコバイなどと同じく、カメムシの仲間です。

皆様も春から初夏の頃に、植物の茎や葉の裏などに、白い唾のような“泡”が付いているのを見かけたことがあると思いますが、その泡の中にいるのが、この「アワフキムシ」の幼虫なのです。

欧米では「カッコウの唾」とも呼ばれるこの“泡”、とてもよく目に付くのですが、成虫の姿は見たことのない方が多いのではないのでしょうか。

非常に地味ですし…

さて、中に幼虫がいるこの“泡”は誰が作ったのでしょうか？

成虫が産卵時に卵を泡で包む、と思っている方はおられませんか？

成虫は、秋には産卵して死んでしまいますので、産卵の際に泡で包むとしたら秋から春にかけても泡が見つかるはずですが、実際には見つかることはありません。

そもそも、それほど長期間持続する泡などないでしょうし…

ということは、この泡は、春に孵化した幼虫が作ることにになります。

アワフキムシの幼虫は、植物の茎に針のような口を差し込んで、汁を吸っているのです。そして、その中の栄養分を吸収した後、余った水分を排出するのは、セミと同じです。でも…

アワフキムシの幼虫は、おしっこをするときに吸い込んだ空気を混ぜ込みながら泡立てていきます。

おしっこの中にはロウ物質が溶け込んでいるので、石けんを泡立てるかのように泡をつくっていくのです。

それでは、何のために泡をつくってその中に隠れてしまうのでしょうか？

どうやらアリなどの外敵から身を守る、シェルターなのでしょう。

つまり、この虫、排泄物を防御のために活用しているのですね。

やがて、羽化した成虫は…

もはや泡の中に隠れることはなく、泡を作ることもありません。

そして危険を感じたときには…

“ポンッ”という感じで飛び跳ねて、どこかへ逃げて行ってしまうのです。

◆写真①・②： ホシアワフキ (成虫)

◇腹側から見た2枚目の写真は、セミにそっくりです。

◇林の中や、林縁部分で見かけることの多い種で、体長（翅端まで）は13~14mmくらいです。

◆写真③： クロスジアワフキ (成虫)

◇体長（翅端まで）は10mmくらいで、山地性の種のようにです。

◆写真④： ジョロウグモに補食されたオオアワフキ (成虫)

◇体長（翅端まで）は15mmくらいで、山地性の種のようにです。

◇ジョロウグモの網にかかってしまったようですが、なぜか糸でぐるぐる巻きにはされていませんでした。







